

合同ゼミ準備ガイド（公開版）

自分たちで創る 2つの教材提案

他大学との合同ゼミ（本番）

テーマ「体育授業における探究的な学び」



ゴール

11月21日、90分で2つの教材を提案する

いつ・どこで

**14:40～16:10
(90分)**

体育館
バスケットコート1面

どんな形で

**2場面展開
教材A・教材B**

半面ずつ同時に進め、
学習過程の中の「もっと」を見取る

何を仕上げるか

**単元計画×2
指導案×2**

+ 進行案（指導計画表）
+ 午前の発表③（20分）

ゴールの合言葉：子どもの「もっと」が、どの場面で、何によって生まれるのかを、2つの教材で参加者と確かめ合える提案にする

体育館が使えるのは4回。逆算して進める

日にち	場所	段階	この日のゴール
10/15 (木)	教室	構想	テーマを読み解き、前期の教材からA・Bを選ぶ
10/22 (木)	体育館①	試す	教材A・Bをテーマに合わせて改良し、動いて確かめる
10/29 (木)	体育館②	改良する	改良版を試し、単元の流れと発表③の演題を決める
11/5 (木)	なし	書く	ゼミなし。各チームで単元計画・指導案を書く
11/12 (木)	体育館③	通す	90分の通しリハーサルと、発表③の練習
11/19 (木)	体育館④	仕上げる	最終リハーサル、書類を確定して印刷する
11/21 (土)	体育館	本番	午前 発表③ (20分) / 14:40～16:10 実技

本番までに決める13項目

中身（何を） ～10/22

- ① テーマの読み解き
- ② 対象（小低・中・高／中1・2）
- ③ 運動領域・種目
- ④ 前期の教材からA・Bを選ぶ

授業（どう教える） ～11/11

- ⑤ 各教材のねらいと学習課題
- ⑥ ルール・場・用具
- ⑦ 単元の流れと本時の位置
- ⑧ 評価の観点と見取り方

運営（当日） ～11/12

- ⑨ 90分の時間配分
- ⑩ チーム内の役割
- ⑪ 参加者の分け方と移動
- ⑫ 用具の準備と片付け
- ⑬ 午前の発表の演題と構成

決めたことはチームのGoogleドキュメントの「進み具合」表に書き、次の回の最初に読み上げて確認する

「考える→試す→直す」を回して仕上げる



判断の基準：ねらいに迫る動きが出たか / 全員が参加できたか / 安全か / テーマにつながっているか

2つの教材チームと、発表メンバー

チームA

教材Aの改良・試行
単元計画A・指導案A
当日の場面A

記録：チームAのGoogleドキュメント

チームB

教材Bの改良・試行
単元計画B・指導案B
当日の場面B

記録：チームBのGoogleドキュメント

発表メンバー

A・Bから数名ずつ（各チームの中から）
午前の発表③（20分）の
スライド作成と発表

10/15に2チームに分かれ、その場で**チーム内の役割**（次のページ）と**発表メンバー**を決める

チーム内の役割分担

1人1役を持ち、書類は全員で書く

役割（人数）	準備期間の主な仕事	当日の動き
① 発表（2名）	午前の発表③のスライド作成（相手チームの担当と合同で）	午前に発表、午後は観察
② 教師役（1名）	指導案の展開を声に出して練習、指示・説明の言葉	場面の授業者
③ 補助・安全・教具（1名）	個別の支援、安全面、用具リストと借用、場の配置図	補助・安全管理、準備と片付け
④ 単元計画（1名）	単元計画のとりまとめ（11/4下書き・11/11確定）	児童生徒役に入る
⑤ 指導案（1名）	指導案のとりまとめ（11/11下書き・11/16確定）	児童生徒役に入る
⑥ 観察・記録（1名）	試行の記録、観察カードの作成、写真・動画	観察役への説明・記録
⑦ 進行・協議会（1名）	相手チームの担当と2人で進行案（指導計画表）	導入・協議会の司会

フェーズ1 構想して試す

10/15（教室）・10/22（体育館①）

10/15 話し合うこと

1. 合同ゼミのテーマを、自分たちの言葉で言い換える
2. 対象を小学校（低・中・高）・中1・2から選ぶ
3. 前期の教材を一覧にし、テーマに合う候補を出す
4. 候補からA・Bを選び、改良の方向を決める
5. 2チームに分かれ、役割と発表メンバーを決める

10/22 体育館でやること

1. 半面ずつ使い、改良した教材A・Bを各20分試す
2. 試す人・見る人に分かれ、動きを記録する
3. ふり返しシートで「よかった・困った」を出す
4. ルール・場の修正点を3つに絞る

このフェーズで決めること：① テーマの読み解き ② 対象の学年段階 ③ 種目 ④ 前期の教材から選ぶA・B ⑩ チーム内の役割

10/29（体育館②）・11/12までのチーム作業

10/29 体育館でやること

1. 改良版の教材A・Bを試す
2. コートを2面に分けた場の配置を決める
3. 本時（当日やる1時間）を単元の何時間目にするか決める
4. 単元の流れ（はじめ・なか・まとめ）の骨組み
5. 午前の発表③の演題と構成を決める

ゼミ外のチーム作業（11/5はゼミなし）

1. 11/4まで：単元計画A・Bの下書きを提出
2. 11/11まで：単元計画を確定、指導案A・Bの下書き
3. 11/11まで：90分の進行案を指導計画表に書く
4. 11/11まで：発表③のスライド下書き、観察カード

このフェーズで決めること：⑤ ねらい・学習課題 ⑥ ルール・場・用具 ⑦ 単元の流れ ⑧ 評価 ⑨ 時間配分 ⑬ 発表の演題

フェーズ3 通して仕上げる

11/12（体育館③）・11/19（体育館④）

11/12 通しリハーサル

1. 進行案どおり90分を通す（児童生徒役・観察役を立てる）
2. 場面ごとの時間を計り、ずれを記録する
3. 指示・説明が伝わったかを参加者役に聞く
4. 観察カードで「もっと」が見取れたか確かめる
5. リハーサル後に発表③を通して練習する

11/19 最終リハーサル

1. 直した部分を中心にもう一度通す
2. 用具の数・配置・準備と片付けの手順を確認
3. 協議会の進め方と発表③を最終確認する
4. 指導案をQRで配布できるデータにまとめる

このフェーズで決めること：⑪ 参加者の分け方と移動 ⑫ 用具の準備と片付け 発表③の確定

午前の発表③（20分）

午前で問いを立て、午後に確かめる

構成案（20分）

分	内容
3	私たちはテーマ「探究的な学び」をどう捉えたか
5	前期の実践で見えた子どもの「もっと」と課題
8	午後の教材A・Bと学習過程の提案
2	午後に参加者と一緒に確かめたい問い
2	質疑

準備の日程

10/29 演題と構成を決める
11/11 スライドの下書き
11/12 通しリハの後に練習
11/19 最終練習・確定

発表メンバー（A・Bから数名ずつ）がスライドを作り、分担して発表する。材料は各チームのGoogleドキュメントから集める。

「教材体験」で終わらせない3つの工夫

1

学習過程ごと見せる

試す → 気づく → 工夫する → もう一度
試す、の流れを1場面の中で回す。「も
っと」は過程の中で生まれる。

2

観察役が「もっと」を記録

参加者を児童生徒役と観察役に分け
る。観察役は「もっと」が生まれた瞬
間とそのきっかけをカードに書く。

3

協議会でA・Bを比べる

2つの場面のカードを持ち寄り、「もっ
と」を生んだのはルールか、場か、課
題か、仲間かを比べて整理する。

そのため参加者は、AかBのどちらか一方にじっくり参加し、もう一方の様子は協議会で共有して知る

当日の90分（たたき台）

1つの場面で学習過程を回し、協議会で比べる

時刻	分	場面	内容
14:40	10	導入	提案の問い「子どもの『もっと』はどこで、何によって生まれるか」と観察の視点。AかBに分かれ、児童生徒役と観察役を決める
14:50	45	場面A・B	半面ずつ同時に進行。① 試しのゲーム → ② 課題に気づく → ③ 工夫して再挑戦 → ④ ふり返り。観察役は「もっと」の瞬間をカードに記録
15:35	5	移動	A・B混合のグループをつくる、水分補給
15:40	25	協議会	カードを持ち寄り、A・Bで「もっと」を生んだもの（ルール・場・課題・仲間）を比べる → 全体で共有
16:05	5	まとめ	午前の発表とつなげて提案をまとめる、お礼

場面の45分は、単元の中の1時間を圧縮して見せる（指導案に「当日見せる部分」として書く）。

場の設定（イメージ）

バスケットコート1面を2場面に分ける



確かめておくこと

- ・ボールが隣の場面に入らない工夫
- ・笛や声が混ざらない合図の決め方
- ・観察役が立つ場所（サイドライン外）
- ・用具を置く場所と運ぶ順番

10/29に決める

ゴール・コーン・ネットの位置を図にして、指導案の「場の設定」に貼る

90分のゼミを4つの段階で回す

5分

確認

前回の決定事項を読み上げ、
今日のゴールを決める

60分

話す・試す

チームごとに討議、または体
育館で試行する

15分

共有

A・Bチームが報告し合い、テ
ーマとのずれを確かめる

10分

決める

決定事項と各自の宿題を、チ
ームのGoogleドキュメントの
宿題表に書く

迷ったときに立ち返る4つの問い

子どもにとって面白いのか / ねらいに迫る動きが生まれるのか / 全員が参加できて安全なのか / 子どもの「もっと」が生まれるのか

記述はチームのGoogleドキュメントに集める

書類	とりまとめ（役割）	下書き	確定
実技の演題・領域	発表①	10/29	先生と相談
討議記録・各自の宿題	全員	毎回	毎回の終わり
試行ふり返り	記録⑥	体育館の日	その日のうち
単元計画A・B	単元④	11/4	11/11
指導案A・B	指導案⑤	11/11	11/16
進行案（指導計画表）	進行⑦	11/11	11/16
発表③スライド・観察カード	発表①・記録⑥	11/11	11/19
QR掲載用データ	指導案⑤	—	11/19

チームA・Bは討議記録から指導案まで、それぞれのGoogleドキュメントに共同編集で書き込む。先生はドキュメント上でコメントする

合同ゼミのテーマとつなぐ

体育授業における探究的な学び

— もっとやりたい、もっと知りたい、もっと学びたい

どの場面で

教材A・Bのどの場面で、子どもの「もっと」が生まれるか

何によって

ルール・場・課題・仲間との関わりの、何がそれを生むのか

どうつながる

「できる・わかる・かかわる」がつながる学習過程になっているか

技能の指導に偏らず、子どもが課題を見付けて解決していく過程を、前期の教材にどう組み込むかが改良のポイント。答えは単元計画・指導案の「テーマとの関連」と、当日の導入で話す。

10/15（木）までに

前期の教材を見直して、 「これを出したい」を1つ持ってくる

選んだ教材の名前・対象（小学校低・中・高学年／中学1・2年）・その教材の面白さ・テーマとのつながりを、ワークシート①の「事前メモ」に書いておく